

第 2 章

本市の災害対応、 救助と復旧への支援

第1節 災害対応

1. 本庁の対応
2. 緊急対策と並行した震災復興基本方針の策定

第2節 救助と復旧への支援

1. 救助と仮埋葬
2. 避難者の受け入れ
3. 各自治体からの人的支援
4. 応急仮設住宅の整備
5. 各種生活支援

第1節 災害対応

1. 本庁の対応

未曾有の災害と表現された東日本大震災で、最大の被災地といわれた石巻市ですが、「災害への備え」という点では、震災前からハードとソフト両面での防災・減災に向けた取組を多角的に進めてきました。その背景には、本市では、これまでも度重なる地震と津波（注意報・警報発表を含む）を経験してきた歴史があること、そして高い確率で発生が危惧されていた宮城県沖地震への危機意識が挙げられます。しかし、3月11日に発生した地震は、本市の備えをはるかに上回る規模であり、迅速な初動対応につなげることができませんでした。加えて、災害対策本部がある市役所本庁舎が、津波の浸水により孤立するなど予期せぬ事態に見舞われました。

指定避難所の浸水や壊滅といった状況下で、市民への安全確保の呼び掛け、あらゆる情報の収集、避難所開設や食料の確保、救助要請への対応、関係機関との連携など時々刻々と変化する課題に判断を迫られる中、市役所として迅速な対応が求められたのです。また、並行して復旧への準備を進める必要がありました。



3月11日午後2時46分に地震が発生。約3分にわたる揺れで本庁舎6階では天井が崩落した。



駅前にぎわい交流広場に避難する人たち（現在は移転した市立病院が建っている）。

(1) 災害対策本部の設置

本市では、地域防災計画に基づき、地震の発生と同時に災害対策本部（以下「災対本部」という）を設置しました。当日は、議会開会中で保健福祉常任委員会が開かれており、本来は災対支部長として指揮を執る立場の総合支所長らが市役所本庁舎にいました。したがって、多くの災対支部では、指揮命令系統が通常とは異なる中での災害対応となりました。一方、本部連絡室では、通信の不通や情報の錯綜により断片的に入ってくる情報を収集・整理しながらも被害状況の全体像の把握は困難を極め、災害対策で最も重要な初動体制が混乱しました。

発災直後の応急活動と並行して、本市のほか、国・県の機関、消防・警察・自衛隊・ライフライン等各関係機関による災対本部を市長室隣室の庁舎4階庁議室に設置し、関係する幹部職員が集まる中、市内各所から収集した被害情報の把握などに努めました。また、自衛隊は庁舎5階に「石巻方面連絡調整所」を設置し、活動拠点としての役割を担いました。

なお、災対本部は通例、本格的な復旧・復興事業の進展とともに別組織に役割が移行し廃止されることが多いのですが、「復興への道筋が整うまでは存続させる」という当時の幹部職員の意向により組織を継続しました。廃止されたのは、発災から10年が経過し、復興期間が終了した2021（令和3）年3月31日でした。

❖東日本大震災発生時の災害対策本部構成員

石巻市防災会議			
石巻市災害対策本部			石巻地方広域水道企業団事務局長 石巻地区広域行政事務組合事務局長 石巻地区広域行政事務組合消防長
本部長	副本部長	本部員	
市長	副市長 副市長	総務部長 企画部長 生活環境部長 健康部長 福祉部長 産業部長 建設部長	病院局長 病院局事務部長 教育長 教育次長 会計管理者 各総合支所長 総括消防団長
			現地対策本部 本部連絡室 室長：防災対策課長 副室長：防災対策課長補佐 室員：防災対策課職員 本部連絡員 (各災対部1名) 防災関係機関派遣職員
<ul style="list-style-type: none"> 本部長が必要と認めるとき、会議に本部員の他、本部長が指名した者、その他本部長が必要と認めた防災関係機関の者の参加を要請する。 			
災対総務部	部長：総務部長 副部長：総務部次長	◇本部連絡班 ----- 防災対策課 ◇財政班 ----- 財政課 ◇管財班 ----- 管財課 ◇応援班 ----- 工事検査室、議事事務局、選挙管理委員会事務局、監査委員事務局	◇総務班 ----- 総務課 ◇人事班 ----- 人事課 ◇出納班 ----- 会計課
災対企画部	部長：企画部長 副部長：企画部次長	◇総務班 ----- 総合政策課 ◇広報広聴班 ----- 秘書広報課 ◇応援班 ----- 行政改革課、市民協働推進課、情報政策課、マニフェスト推進室	◇秘書班 ----- 秘書広報課
災対生活環境部	部長：生活環境部長 副部長：生活環境部次長	◇総務班 ----- 環境課 ◇清掃班 ----- 環境課 ◇納税班 ----- 税務課（収納管理室） ◇応援班 ----- 市民課、税務部（税務管理室）	◇防疫班 ----- 環境課 ◇調査班 ----- 税務課（課税管理室）
	災対渡波・稲井 荻浜・蛇田 各支所		
災対健康部	部長：健康部長 副部長：健康部次長	◇総務班 ----- 健康推進課 ◇援護班 ----- 介護保険課 ◇応援班 ----- 保健年金課、夜間急患センター	◇救護班 ----- 健康推進課
災対福祉部	部長：福祉部長 副部長：福祉部次長	◇総務班 ----- 福祉総務課 ◇援護班 ----- 福祉総務課、障害福祉課 ◇応援班 ----- 子育て支援課、各保育所、市民相談センター	◇避難収容班 ----- 保護課
災対産業部	部長：産業部長 副部長：産業部次長	◇総務班 ----- 商工観光課 ◇水産班 ----- 水産課、水産物地方卸売市場管理事務所 ◇農林班 ----- 農林課 ◇応援班 ----- 産業戦略課、農業委員会事務局	◇観光班 ----- 商工観光課
災対建設部	部長：建設部長 副部長：建設部次長	◇総務班 ----- 都市計画課、港湾対策室 ◇都市計画班 ----- 都市計画課 ◇道路班 ----- 道路課、施設維持事務所 ◇建築班 ----- 建築課 ◇下水道総務班、ポンプ場班、巡視班 ----- 下水道課	◇建築指導班 ----- 建築指導室
災対病院部	部長：病院局事務部長 副部長：病院局事務次長	◇総務班 ----- 石巻市立病院事務部門総務課、病院長室 ◇医療班 ----- 石巻市立病院診療部門、薬剤部門、医療技術部門、看護部門 ◇医事班 ----- 石巻市立病院事務部門医事課、地域医療事務室、医療福祉相談室、健診センター ◇雄勝病院班 ----- 市立雄勝病院 ◇牡鹿病院班 ----- 市立牡鹿病院	
災対教育部	部長：教育長 副部長：教育次長	◇総務班 ----- 教育総務課 ◇学校管理班 ----- 学校管理課 ◇体育振興班 ----- 体育振興課 ◇応援班 ----- 各公民館、図書館、歴史文化資料展示施設整備対策室、総合運動公園管理事務所、各給食共同調理場、各小学校、各中学校、各高等学校、各幼稚園	◇学校教育班 ----- 学校教育課 ◇生涯学習班 ----- 生涯学習課
災対消防団	部長：総括消防団長 副部長：各消防団長	◇総務班 ----- 各団本部員 ◇警防班 ----- 各団分団員	
災対支部	支部長：各総合支所長 副支部長：各総合支所次長	◇災対河北支部 ◇災対河南支部 ◇災対北上支部	◇災対雄勝支部 ◇災対桃生支部 ◇災対牡鹿支部
			※総合支所長は災対支部において指揮を執るが、状況に応じて本部員会議に出席する。

(2) 津波発生の情報とその対応

地震発生後、災対本部が組織され、本庁の各災対部などから断片的ではあるものの市内の情報が本部連絡室に寄せられてきました。本部連絡室である防災対策課(現危機対策課)では、強い揺れが続く中、防災行政無線で、市民に避難を呼び掛ける放送を繰り返し行いました。同時に、市役所に寄せられる情報を整理する中で目にするのは、「壊滅」「水没」といった信じ難い言葉でした。被害の全容がつかめない中、情報の収集と発信を並行して進めた初動の状況を、防災対策課職員の視点から振り返ります。

■全容がつかめない中での市民への一報

2011(平成23)年3月11日午後2時46分。本庁舎内の通路を歩いていた防災対策課長は、突然の強い揺れに思わずひざを落としました。壁には亀裂が走っています。揺れが収まった後、すぐに課内に駆け込むと、防災広報の担当職員が市民に向かって避難の呼び掛けを行っていました。

職員は揺れが続く中、無線室に入ろうとしましたが、地震で倒れた棚が邪魔をして扉が開けられません。同僚の協力で棚をどかし、急いでマイクの前に向かいました。緊急用のボタンが目の前にありました。誰も押したことのないボタンでした。担当職員のボタンを押す指先は、地震の揺れと恐怖で震えていました。

「大地震発生、大地震発生」

防災行政無線の放送を始めました。通常の「こちらは防災…」から始まる定型文は省き、短文で内容を伝えました。この時点では、まだ大津波警報は出ていませんでしたが、いち早く注意を啓発しました。その直後、県の防災無線緊急ファックスが防災対策課に着信しました。

「大津波警報が発令されました。高台に避難してください」

何度も繰り返し呼び掛け、途中で「大津波警報」と単語を挟み、危機が迫っていることを伝えました。

■壊滅という言葉

市内は各所で停電していましたが、防災対策課内は代替電源が稼動したため、電子機器はある程度動かせました。緊急用の衛星回線で公用車や総合支所と連絡を取りますが、沿岸部の雄勝地区、北上地区には全く通じませんでした。テレビには津波が襲う気仙沼市や名取市の様子が映し出されましたが、報道で石巻市の状況は映し出されませんでした。

職員はホワイトボードに通報等で寄せられた情報を時系列で書き込みます。そこには信じ難い言葉が並んでいきました。

15時50分 津波により鮎川浜壊れつ

16時20分 橋通りで一般市民多数行方不明

(3) 津波火災とその対応

旧北上川の河口に位置し、約4,500人が居住する石巻地区の南浜・門脇地域では、津波の襲来後、広範囲で津波火災が発生し、最大750m×200mの範囲で56,100㎡以上の区域に延焼しました。

防災対策課の記録では、3月11日午後5時15分に「門脇小学校前の家が火災」、午後5時50分には「門脇小全焼」という一報が入っていたことが確認できます。

この津波火災について、当時の記録と職員の証言から見てくるのは、複合災害が発生するリスクへの危機意識と備えの大切さです。ここでは、記録や証言から、主に沿岸部で発生した津波火災について振り返ります。

発災から日付が変わる3月12日午前0時ごろ、日和山に立地する指定避難所である市立女子高校に2次避難の指示が出されました。南浜・門脇地域で発生した火災が日和山へ延焼する可能性があるとして、避難所を閉鎖の上、避難者を火元から離れた石巻中学校および門脇中学校へ移動させるようにという災対本部からの指示でした。

しかし、停電により真っ暗な中を徒歩での移動となるため、安全に避難者を誘導する必要があります。そこで、本庁の職員数名と日和山で待機中の職員がその任に当たることになりました。ところが、市役所本庁舎は、津波の浸水により1階が水没していたため、庁舎から出るには冷たい水に浸からなければなりません。当時の気温は、午前0時の時点で氷点下1度でしたので、日和山へ避難誘導に向かった職員の覚悟が伝わってきます。また、けが人等移動できない避難者については、同校にて経過観察を行うこととし、非常時に備えた避難体制が組まれました。

庁舎から避難誘導に当たった職員は、当時を振り返り「深夜、胸近くまで濁水に浸かって、何も見えない中での移動だった。水の中がどうなっているのか全く分からず、地震・津波でマンホールが外れていたら、落ちて死んでいたかもしれない。大変危険な行為であったと思う。」と話しているように、災害対応には冷静な状況判断が必要なことを示す例でもあります。

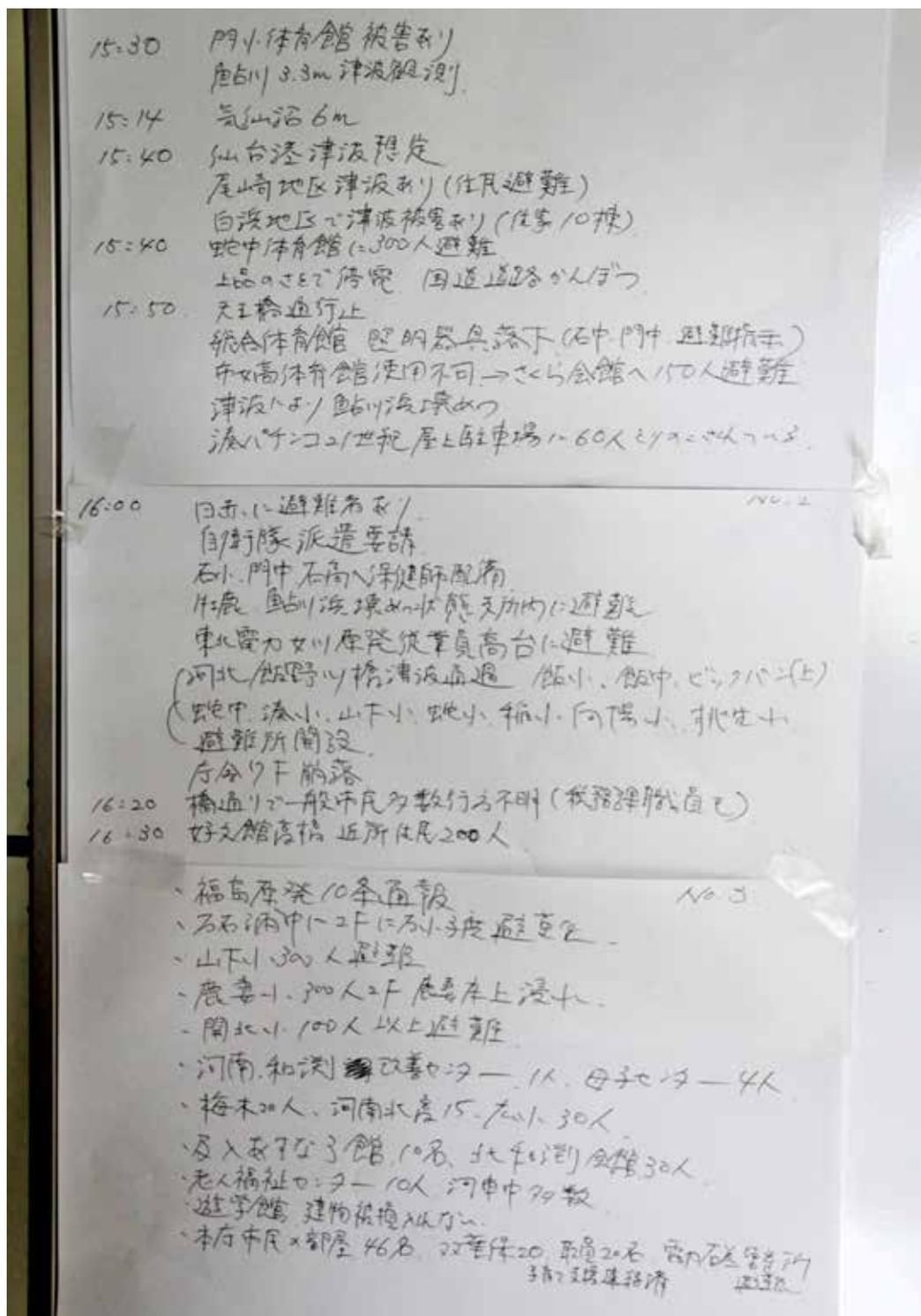


3月11日に南浜・門脇地域で発生した火災

(4) 情報の収集

本部連絡室には、市役所に寄せられる震災関連の情報が集約されました。津波発生前は、6総合支所や4支所の無線、固定電話による「人的被害状況」や「避難所設置」といった事務的な内容でしたが、津波発生後は、時間の経過とともに切迫した内容に一変し、地震や津波の影響で停電したほか、携帯電話もつながりにくい状況となりました。スムーズな情報伝達が困難となりましたが、消防・自衛隊の無線、市職員や消防団員による確認、市民からの通報など、さまざまな手段を駆使して情報を集めました。災害発生時の混乱の中、正しい情報の整理と冷静な判断や対応が求められました。

東日本大震災復興記録誌



3月11日午後5時ごろに撮影された本部連絡室のホワイトボード。「鮎川3.3m津波観測」など各地の津波被災の第一報が寄せられている。

●発災から5日間の記録

下表は本部連絡室(本庁・防災対策課)のホワイトボードに貼り出された情報のうち、3月11日から3月15日までの記録を地区別にまとめたものです。一部を除き、誤報であった情報も含め、当時の記録を時系列で示すとともに断続的に発生していた余震についても追記しています。表記した地震は、市内で震度3以上を観測したものです。なお、市内で3月11日に発生した地震は、本震を含め震度1は74回、震度2は39回、震度3は17回、震度4は5回、震度6強は本震の1回でした。ただし、気象庁によると、3月13日から15日にかけて、市内の地震観測設備が機能しておらず、地震の記録は0回となっています。ここでは記録されていた震度3以上を表中に記しています。

2011年3月11日(金)	
14:46	石巻市内震度6強(M9.0、最大震度7)震央地:三陸沖、深さ24km ※()内は国内における最大値
14:51	石巻市内震度4(M6.8、最大震度5弱)震央地:福島県沖、深さ33km
14:54	石巻市内震度4(M6.1、最大震度5弱)震央地:福島県沖、深さ34km
14:55	石巻市内震度3(M6.0、最大震度3)震央地:茨城県沖、深さ55km
14:58	石巻市内震度3(M6.6、最大震度5弱)震央地:福島県沖、深さ35km
15:00	【石巻地区】石巻小、石巻中、各校体育館、市総合体育館に避難 【雄勝地区】人的被害なしの一報
15:03	石巻市内震度3(M6.0、最大震度3)震央地:茨城県沖、深さ17km
15:06	石巻市内震度4(M6.5、最大震度5弱)震央地:岩手県沖、深さ29km
15:12	石巻市内震度3(M6.7、最大震度5弱)震央地:福島県沖、深さ39km
15:14	【その他】気仙沼津波6m
15:23	石巻市内震度3(M6.1、最大震度4)震央地:岩手県沖、深さ31km
15:25	石巻市内震度3(M7.5、最大震度4)震央地:三陸沖、深さ11km
15:30	【石巻地区】門脇小体育館被害あり 【牡鹿地区】鮎川に津波3.3m
15:40	【石巻地区】蛇田中体育館に避難 【河北地区】尾崎地区津波あり(住民避難)道の駅上品の郷停電、国道陥没 【北上地区】白浜地区津波(住宅10棟被害)
15:50	【石巻地区】総合体育館照明器具落下、石巻中・門脇中に避難指示、市女高体育館使用不可、市女高武道館に避難、湊パチンコ店屋上に取り残されている 【河北・河南地区】天王橋通行止め 【牡鹿地区】津波で鮎川浜壊滅
16:00	【石巻地区】日赤病院に避難者あり、自衛隊に派遣要請、石巻小・門脇中・石巻高に保健師配備、蛇田中・湊小・山下小・蛇田小・稲井小・向陽小に避難所設置、市役所本庁舎7階崩落 【桃生地区】桃生小に避難所設置 【牡鹿地区】鮎川浜壊滅状態、支所内に避難 【その他】女川原発従業員が高台に避難
16:04	石巻市内震度3(M5.7、最大震度4)震央地:宮城県沖、深さ24km
16:05	石巻市内震度3(M5.7、最大震度4)震央地:岩手県沖、深さ27km
16:10	石巻市内震度3(M6.2、最大震度3)震央地:三陸沖、深さ27km
16:10	【石巻地区】日赤の救護班要請、湊落石で死者あり、市立病院1階が壊滅、職員3階に避難(けが人なし)、消防本部に200人避難、県合同庁舎に300人避難、山下小に避難多数、全原協から協力要請あり(飲料、毛布) 【その他】女川原子力建屋に冠水
16:20	【石巻地区】橋通りで市民多数行方不明
16:29	石巻市内震度4(M6.6、最大震度5強)震央地:岩手県沖、深さ17km
16:30	【石巻地区】好文館高に住民避難
16:40	石巻市内震度3(M5.3、最大震度3)震央地:宮城県沖、深さ28km
16:40	【石巻地区】蛇田支所より 向陽小から毛布等物資を中里小へ運ぶ、市内各所の公民館、学校、消防署、幼稚園、病院、小売店、石ノ森萬画館などに住民が避難、万石浦中に万石浦小の子供を避難、山下小に300人避難。開北小に100人以上避難、本庁市民の部屋46人、双葉保育所20人、職員20人が東北電力石巻営業所に避難、総合体育館に200人以上避難 【河南地区】総合支所が倒壊、バス車庫に避難、和刈改善センター1人、母子センター4人、梅木20人、石巻北高15人、広瀬小30人、笠入あすなろ館10人、北和瀬30人、老人福祉センター10人、河南東中多数避難、遊楽館建物破損で入れず 【桃生地区】全壊家屋あり、桃生中全員下校、けが人なし 【その他】福島原発10条通報
16:54	石巻市内震度3(M5.5、最大震度3)震央地:福島県沖、深さ35km

17:15	【石巻地区】市立病院駐車場が見えないくらい冠水、門脇小学校前の家が火災、大街道の銭湯、車半分の高さまで浸水
17:19	【桃生地区】(総合支所)家屋全壊28棟、半壊51棟、一部損壊75棟、倉庫半壊52棟、ブロック倒壊70箇所、道路陥没72箇所、軽傷3人 【その他】大曲字上納救助要請3人屋根上
17:25	【その他】多賀城自衛隊、冠水のため応援できない
17:30	【石巻地区】上釜会館15人避難者、住吉中に避難者(けが人あり)、上釜会館16人避難者が2階へ、住吉中体育館に避難者(けが人あり)、東北電力から広報依頼(切れた電線に気をつけて)、市役所に避難者、市図書館に避難者100人、霊園に避難者あり人数不明(管理事務所の窓破り)、好文館高南側墓地に避難(子供15人救助要請)、穀町のマンションに60人避難、自衛隊に派遣要請、湊地区の幼稚園に300人避難(けが人あり・物資要請)、専修大に10人避難被害はなし、本庁2階152人避難、住吉町の幼稚園2階に避難1階は浸水 【河北地区】河北総合センター10人避難 【牡鹿地区】牡鹿総合支所200人避難
17:31	石巻市内震度3(M5.9、最大震度4)震央地:福島県沖、深さ31km
17:40	石巻市内震度4(M6.0、最大震度5強)震央地:福島県沖、深さ30km
17:46	石巻市内震度3(M5.9、最大震度3)震央地:福島県沖、深さ15km
17:50	【石巻地区】門脇小全焼、ホームセンターへ協力要請 寝具3000、山下中水かさ増し救助要請、旧庁舎被害小、石巻小学校庭に水がきている、門脇南浜すべて水没 【河南地区】北村小倒壊の恐れ
18:10	【石巻地区】市民より、時刻分からないので防災無線で流してほしい、市体育館、石巻中・門脇中・石巻高の避難状況確認指示、石巻警察署300人避難、東京と札幌の救援隊が運動公園集合予定、市内病院に住民避難も患者対応ができないので移動要請、道路亀裂、蛇田公民館50~60人避難、満潮19:54(95センチ)、市女高避難者5人救助要請、中里小冠水あり避難者1,200人、中央公民館20人、図書館20人、立町1丁目屋根に4人取り残されている救助要請、蛇田中から物資要請(介護用パンツ、乾電池等)、釜小裏民家1名救助要請、合庁200人以上避難、門脇の企業から7~8人救助要請、向陽小~中里小間の道路通行可能
19:00	【石巻地区】毛布要請(市女高130、図書館130人分)、国道45号通行可能、本庁2階297人避難、山下中職員室冠水、緊急電話使用不可、教育委員会児童生徒の安全確認(3/15)、臨時休校(3/15まで)、3/12の卒業式は学校長判断で中止の方向、公民館・スポーツ施設の事業終了(避難所に専念) 【河北地区】避難300人、体育館神社等10箇所(長面、尾崎方面調査不能)、新北上川堤防越水により河北釜谷集落に流入、家屋浸水(床上多数)、長面地区全域浸水情報あり、大川中前の堤防に亀裂発生、北上河北線かけ崩れ、国道45号飯野川通行可、人的被害、負傷者なし、停電で通信不能で調査進まず。水道断水措置(飲料水確保のため)
19:13	石巻市内震度3(M5.3、最大震度3)震央地:宮城県沖、深さ46km
19:15	【石巻地区】市立病院囁託職員2人行方不明、日赤病院帰宅難民、救助要請あり 【雄勝地区】雄勝総合支所孤立(消防通信司令室) 【その他】女川原発1号機火災、タービン建屋B1F~消火中
19:20	【石巻地区】魚町3丁目工場屋根に1人孤立、救助要請、石巻高700人避難 【その他】松島基地、滑走路浸水で動き取れず
19:25	【石巻地区】農協中里本店30~40人避難
19:30	【石巻地区】日赤(病院近くに遺体安置所置けないか?総合体育館への搬入方法など照会)、日本製紙工場内5人社内1人救助要請(水没危険、消防対応不可)、石巻小避難所から毛布要請あり、蛇田小・石巻中・住吉中・青葉中・湊小・万石浦中に避難者、中央の高齢者住宅100人避難、水・食料要請、向陽小、避難者満杯(日赤から流れてきた)
19:45	【石巻地区】多賀城自衛隊15:00に石巻に向かったがまだ到着せず、浄化槽管理センター150人避難、門脇小1・2年生帰宅(安否不明19人)、住吉町の保育園2階に避難(毛布で暖を取っている、電気なし、ラジオ石巻に連絡し家族向けに情報流した、水とお菓子あり) 【桃生地区】中津山二小300人避難
20:00	石巻市内震度3(M5.5、最大震度4)震央地:福島県沖、深さ46km
20:00	【石巻地区】本庁舎2階避難者298人 蛇田の幼稚園、園児12人、大人20人避難
20:06	【石巻地区】総合体育館への遺体搬送手段ないので敷地内に安置所暫定設置(日赤より)
20:10	【石巻地区】旧市内で火災多数発生 【河北地区】天王橋落下、船越で建物倒壊
20:36	石巻市内震度3(M6.7、最大震度5弱)震央地:岩手県沖、深さ24km
21:15	石巻市内震度3(M5.9、最大震度4)震央地:岩手県沖、深さ23km
2011年3月12日(土)	
0:00	【石巻地区】小川町踏切に残された住民の救助に自衛隊が向かう
0:10	【北上地区】北上出張所のポンプ無線より、北上総合支所とその他地区壊滅との情報
0:50	【石巻地区】小川町踏切~石巻駅間に200人取り残され、自衛隊向かっている
1:00	【石巻地区】湊中学校、2~3m水没 【北上地区】北上グループホームで5人死亡、北上総合支所1階半壊、機能せず
1:10	【石巻地区】自衛隊より、貞山地区15人中10人救助なお継続中。小川町踏切、現場に向かうも流れが速くたどり着けない。大橋・元倉地区で5人救助

1:20	【石巻地区】自衛隊より、大街道地区で高齢者2人を救助
1:48	【北上地区】総合支所手前の集落、追波～釜谷崎およそ100棟流失、行方不明あり、十三浜相川地区孤立、音信不通、橋浦小276人避難、北上中370人避難
1:50	【石巻地区】県へ避難所の食料要請(食料→水→毛布の順で)
2:10	【石巻地区】自衛隊ヘリによる空中消火開始(日和が丘)、貞山地区、多数屋根に取り残されている、対応限度を超えている、好文館高に行くことが不可能、県危機対策課より救助活動の拠点場所提供の依頼(運動公園と回答)
3:00	【石巻地区】中里飲食店付近の30人、農協本店に避難
4:30	【石巻地区】県消防課へ水、食料を要請(市立病院分)、市立病院はヘリによる搬送は困難、水が引いてから陸路搬送
4:45	【石巻地区】蛇田小学校、児童70名下半身濡れている、毛布要請→在庫なし→県に3千人分、新潟消防援助隊まもなく運動公園到着 24隊90人
4:50	【石巻地区】市立病院用の水、食料、毛布3千人分を県に至急要請
5:00	【石巻地区】旧日赤病院隣り、看護寮に100人避難
5:45	【石巻地区】大街道小学校より南の地区、2階の高さまで水が来ている、中里小学校 人工透析患者ヘリ要請 【牡鹿地区】これから病院や老人ホーム等被害状況調査行う
6:05	【石巻地区】消防本部裏のサイクリングロードを歩いている人いるので防災無線で注意喚起要望 日赤にDMATが10チーム到着
6:10	【石巻地区】工業高生徒800人避難、水・燃料ほしい
6:25	【石巻地区】工業高近くでガス漏れ発生
6:31	【石巻地区】水道企業団より「蛇田小・蛇田中に給水完了、今後道路状況見て山の手方面給水予定」
6:40	【石巻地区】石巻高、1300人避難。食料要請
7:00	【石巻地区】門脇地区の火災は終息に向かっている(蛇田は鎮火)
9:05	【牡鹿地区】大原浜、給分浜壊滅。県道に家屋散乱し通行不可能、大原小に避難、浜辺から米を持ち寄り炊き出し中、小淵浜壊滅、高台にあるコンビニエンスストアから近隣住民に食料提供、コンビニ前の建物に妊婦が避難(産気づいている感がある)、コンビニから十八成浜は通行可能、十八成浜は壊滅、道路は津波にさらわれ通行不可、鮎川浜地区高台の介護施設に400人程度避難、食料わずか、鮎川浜壊滅、牡鹿総合支所に200人避難、牡鹿総合支所から介護施設までは山道を徒歩で通行、車両不可、谷川、大谷川、鮫ノ浦が情報によると、ほぼ壊滅、避難者数については不明、自衛隊によるヘリコプター救援を早急にと要請あり 【その他】女川～コバルトライン～大原まで通行可能
9:20	【石巻地区】造船所の漂流船、90人全員救助
9:30	【石巻地区】日赤からの要請「給水車で水10t、重油、ホース20m希望」 【牡鹿地区】ホテルに68人
10:30	【石巻地区】住吉ポンプ稼働中、釜ポンプ調査に向かっている、市立病院(患者、職員、避難者合計550人)
10:35	【石巻地区】旭町の久円寺で1mの冠水、内海橋陥落
11:00	【石巻地区】石巻霊園詰め所に200人避難、石巻診療所から30人分の食料援助要請
11:30	【石巻地区】水押、中3男子自宅2階で孤立、(救助要請)宮城水産高、生徒400人孤立
11:46	【北上地区】北上地区被害状況、死者7人・行方不明75人、建物全壊396棟、国道398号不通、新北上大橋・相川橋落下、県道北上・大橋不通、避難者数946人
12:05	【石巻地区】住吉ポンプ稼働していない
12:43	【石巻地区】大街道5丁目音響会社、冠水で20人孤立。水・食料提供要請
12:45	【石巻地区】大街道小、女性2人死亡(低体温症) 県合同庁舎、住民100人以上避難、自家発電切れ浸水で出られず
13:07	【牡鹿地区】総合支所に電力社員6人避難、12:50分現在、大谷川浜では1軒半壊、他すべて流失、谷川小の体育館流失。住民は大原中学校に避難、約70人、食料と毛布、石油ストーブを支所で手配、長渡浜民家4棟倒壊、防波堤ブロック1つ倒壊、網地組合事務所全壊、周辺民家5～6棟被害、避難所(長渡会館、網地開発センター)に200人。※水・食料は持ち寄っている。網小医院(患者異常なし)、銀鮭流失、田代から流された船が網地に流れ着いた(3～4人)、総合支所車庫を遺体安置所とした(70代女性)、谷川小の児童・教員はコミュニティセンターに避難
15:26	【石巻地区】軽症患者は日赤で治療後に桃生地区避難所へ搬送、沖に出たプレジャーボートが戻らない(男性2人)、海保に捜索依頼
16:20	【雄勝地区】水浜、伊勢畑、明神、小島まで90%流出、半島部は調査中、総合支所3階まで水没したため資材も水没、ガラスも割れたため災害支部を置くことが困難、食料・水の援助、連絡手段がないので衛星携帯電話をお願いしたい、現在の避難所は状態が悪いので、他地区に搬送してほしい
16:45	【その他】JR仙石線、不明の2両無事救出
16:55	【石巻地区】海保、プレジャーボートの2人無事確認(船はなし)
17:23	【石巻地区】県立学校、3/18まで休校(状況見て延長検討)、合格発表3/15を3/22以降に延期、3/22の二次募集予定は延期
17:40	【北上地区】総合支所の安否確認計19人

18:50	【河北地区】消防本部より 本日17:45住民通報、昨日の津波の際、大川小児童30人が屋上に避難したが、すべて津波にのまれ2人のみ救出
19:05	【石巻地区】道路課長より、牧山トンネル通行可。鹿妻地区、水は無いが流木ゴミ散乱、一部通行不可。大門崎から旧日赤にかけて流出車両散乱、水は膝の高さ
19:30	【河北地区】入釜谷生活センターに先生と20人近くの児童が避難
20:30	【北上地区】(桃生支所より報告)北上の旅館に約100人避難、旧河北消防署北上出張所から白浜トンネルまで通行できない
21:00	【河北地区】避難誘導中の市職員が津波にさらわれた模様。長面・尾崎地区の被害は甚大だが、大多数が避難できた。釜谷トンネルは通行不可 【雄勝地区】消防本部通じ雄勝へ自衛隊ヘリ要請中、真野林道は軽4WDなら通行可 【北上地区】総合支所は津波でほとんど形なし、河北消防署北上出張所も津波でさらわれた
22:45	【石巻地区】自衛隊による救出者数、3/11:127人、3/12:510人、計637人
2011年3月13日(日)	
5:00	【雄勝地区】雄勝、避難者数合計2894人、遺体53体、不明者109人、大須以外9割救出、雄勝病院は屋上まで冠水
6:00	【石巻地区】湊小、1152人(児童、保護者、住民、保育所、園児、工事関係者)、寒さで体力尽きる、毛布必要、2日間何も食べていない、乳児のミルク作りたい。大人は水一滴も飲まず
7:30	【石巻地区】市内病院9人重症、自衛隊ヘリ要請、住民から「避難者情報を開示してほしい」。ペットフードほしい
8:00	【石巻地区】中里ホームセンター200人の救助にあたる
9:10	【石巻地区】東浜小、児童全員無事(校舎に避難、体育館天井落下)
9:30	【石巻地区】石巻専修大、避難所受け入れ可能
9:50	【河南地区】避難住民、流入多い、河南北高は満杯、熊本防災ヘリ情報、雄勝・小泊地区高台で約400人孤立で水不足→鹿又小の受け入れ検討
10:00	【石巻地区】石ノ森萬画館より、津波で流された高齢者10人保護、持病や認知症あり、門脇中より、トイレトーパー、乾電池単1・単2、ゴミ袋要請
10:20	【石巻地区】青葉中、避難者4000人(食料・水・粉ミルク要請あり)
10:45	【石巻地区】住吉ポンプ放流ゲート開→自然流下、国交省ポンプ2台で排水中(ポンプそのものの復旧は見通し立たず)荻浜12部落が10mの津波で全壊。荻浜中150人、荻浜小80人、東浜小40人避難、桃浦と荻浜で交通遮断。毛布・食料・水が不足(稲井から米6俵)、荻浜中～(徒歩)～小積～(車)～コバルトライン～女川(牡鹿からはコバルトライン経由しかない)
11:00	【石巻地区】(湊の状況)法山寺に500人避難、梅浜寺に100人避難、牧山社務所に200人避難、牧山山通会館で炊き出し中、湊小、湊二小、湊中物資がない
11:30	【石巻地区】(東北電力情報)広淵の民間病院 昨日復旧、日赤病院 今日中に復旧、蛇田地区は戸別訪問で住んでいることが確認できた世帯から随時、冠水地域は水が引かないと何もできない
11:45	【石巻地区】駅前北通り店舗屋上、自衛隊ヘリで救助開始
12:00	【石巻地区】自衛隊より、産業部で水配布リストできていれば、それに基づいて自衛隊で配布する
12:10	【石巻地区】清水町、田道町へすぐ給水車ほしい
12:30	【石巻地区】湊中前でバス横転したまま(老人16人いる模様)→自衛隊派遣要請、吉野町の水産会社ビルに20人(食料なし)、好文館高 物資なし 【北上地区】吉浜小より、行方不明者数名、生存者は北上中・旅館に避難。校舎3階まで津波。総合支所・消防署出張所は全滅。津波直前に支所職員が物資を運び出している様子が吉浜小から確認できた。津波時支所内にほとんどの職員がいた模様。追波・白浜・月浜地区は全滅と思われる。相川方面は不明だが相当の被害とのこと
13:11	【石巻地区】遺体保存、搬送、火葬等の対応について通知(厚労省)
13:30	【石巻地区】住吉町 老人(透析患者)→消防本部に救急搬送依頼済み
13:40	【石巻地区】大街道交番付近通行止め、クリーンセンター停止中
13:50	【石巻地区】水道企業団に来れる方には水を供給している、消防本部周りの水の高さはひざ下、生協と開北小の周りは腰の高さ
14:10	【石巻地区】合同庁舎 避難民300人、職員200人、水食料早急をお願いしたい、限界に来ている
14:15	【石巻地区】国からドーム型テント1張提供、蛇田中央グラウンドに業者設置
14:30	【石巻地区】市立病院1階は壊滅状態、周辺は瓦礫や車の山、中央監視室・風除室に各1人の遺体(税務課職員情報)、立町の住民によると1回目の地震ではなく夜の2回目の地震で壊滅したとのこと、渡波地区はほぼ壊滅との情報あり、渡波地区から続々と日和山地区の避難施設に流入している、受入困難なので北西部の施設に移動必要、渡波地区は放置車両等をまず除去しなければ救助活動ができない
15:00	【石巻地区】日和が丘の幼稚園 園児5人と添乗員1人死亡、(東北電力連絡員より)大きな避難所から随時復旧可能、小さな避難所については、電力で作成する張り紙を避難所に張ってほしい 【河北地区】(河北地区の状況)海上自衛隊のヘリ3台が来て、尾崎、長面方面(一部入釜谷)の生存者を搬送して飯野川中へ、波に飲まれた市職員1人は依然行方不明 【雄勝地区】雄勝林業センター360人避難 炊き出し、米、野菜OK。毛布とブルーシートが不足、クリーンセンターで米が不足、雄勝総合支所→大須小(不足物)トイレ、食料、毛布、オムツ、生理用品、水
15:10	【石巻地区】住吉町の保育園の避難者限界、水・食料の緊急調達要請

16:30	【石巻地区】田代から流されて網地島漂着(3人)行方不明(女性1人)
17:45	【河北地区】釜谷・長面・尾崎地区壊滅、横川地区被害小
18:00	【石巻地区】石巻専修大、避難住民500人超・学生150人・教職員40人、計690人程度
19:00	【雄勝地区】雄勝地区、避難総数2894人 集落壊滅(大須、熊沢、羽坂、荒を除く)、死亡者86人(雄勝病院含む)、雄勝病院 患者・職員46人中26人不明
20:00	【石巻地区】ヘリが来なかったため充電できなかった山居山の防災無線について、改めて依頼したところ、3月14日午前7時にピックアップすることになった、日赤病院電話復旧
21:40	【桃生地区】(桃生総合支所より)北上職員が夕方来て毛布30枚を渡した、午前中に雄勝から職員が来て灯油3ポリタンク、空ポリタンクを渡した、午後には職員とOB、消防団員で雄勝森林公園に毛布120枚、菓子200人分を届けた
21:45	【石巻地区】稲井支所全壊
22:30	【その他】県災対課より「石巻西高に石巻市民302人が収容されているので食料の手配を検討してほしい」
22:46	【石巻地区】大橋地区は自転車、徒歩であれば通行可能
不明	【石巻地区】立町通り七十七銀行付近放置車両により車両通行不可
不明	【石巻地区】店舗全壊多数、食料品・衣料品確保不能、旧庁舎は無事、道路に汚泥10センチ堆積、車両通行不可、重機での整備が必要
不明	【牡鹿地区】大原小学校、全員無事で学校待機※校舎被害なし、鮎川小(不明者18人)・谷川小・牡鹿中→介護施設に避難、寄磯小学校は連絡取れない
2011年3月14日(月)	
0:50	【石巻地区】調査員より「上釜会館が孤立している模様」
1:50	【石巻地区】県災害対策本部より、海上の漂流者28人を収容。健康上問題はないと思うが、医師を待機されたい。ヘリによる搬送で運動公園着。自衛隊により石巻専修大へ。
4:00	【石巻地区】東部地方振興事務所より、庁舎が傾き危険なため退出する他の避難所への足を手配願う
5:30	【石巻地区】民間携帯会社携帯立ち上がり
5:55	【石巻地区】市立病院から日赤への全患者搬送
7:00	【石巻・河北地区】国交省「新北上大橋上流堤防の復旧工事を6時から開始した、工業港道路通行不可、三陸自動車道通行止(緊急自動車のみ 鳴瀬～登米東和間通行可)、沿岸沿いの45号は全て通行ができない、北上川下流事務所より針岡(新北上大橋から出流600m堤防決壊、周辺一帯氾濫)、青葉中の避難所状況について 避難者4～5,000人 【河南地区】総合支所は使用可能(2階を対策本部にしている) 【北上地区】北上地区の状況 職員19人行方不明(うち臨時1人)、防災無線含め通信機能喪失 国道398号通行不能、公用車使用可能台数1台 【牡鹿地区】十八成浜県道崩壊3か所、ガレキで通行不可。茨浜地区の県道 土砂とガレキで通行不能、桃浦地区の県道ガレキで通行不能。コバルトライン鬼形インター付近崩落(この土砂が新山浜への道路をふさいでいる)、大谷川浜 海岸沿いの道路が崩壊している
9:00	【石巻地区】本庁舎は地下ケーブルなので、水がはけないと復旧できない 湊地区葬儀社、現在250人避難(体力が限界)
10:00	【雄勝地区】海上自衛隊護衛隊「おおよど」大浜沖に寄港し夜9時から救援物資を大浜に小船でピストン輸送で陸揚げ職員等集し受け入れの用意をする 【牡鹿地区】牡鹿中教諭より 鮎川地区民・牡鹿中生徒を含め「ほっとまる」に避難 計450人
13:00	【石巻地区】水道企業団に避難民40人いる 【河北地区】天王橋、飯野川大橋通行可
13:35	【石巻地区】緊急援助隊新潟県隊による排水車が中里バイパス南北の排水開始
15:00	【石巻地区】流留の介護施設入居者、職員の数百人が孤立状態→県に救助要請、鹿妻地区の大型店に600人の避難者がいる。営業に支障をきたしているので市で対応してほしい。 【北上地区】総合支所庁舎:全壊、全機能喪失、職員19人行方不明(うち臨時1人)、通信機能喪失(防災無線含む)、国道398号は通行不能、公用車1台使用可能 災害対策本部設置場所は北上中学校
17:00	【河南地区】14日午前9時現在、避難所16施設2196人
17:15	【石巻地区】釜小学校より 遺体の収容と電気、水に関して要請
17:45	【石巻地区】中里小は校舎3階まで避難者でいっぱい、学校敷地のみ水が引いている、水押からのみ徒歩で入ること可、児童は無事と思われる 【河北地区】二俣小の被害なし。河北支所職員の対応に限界が来ており、本庁からの支援要請
17:50	【石巻地区】本庁舎の自家発電用軽油1㎩について県の回答は「状況は把握しているが、いつとはいえない。早急に対応する」、DMAT担当より避難所用テント(収容人数1000人)を蛇田中央公園に設置することで県に正式に要請。受理される 【河南地区】河南地区避難者受け入れ状況(前谷地小300、鹿又小200、広瀬小350、河南東中500、河南西中30、須江小40)
18:00	【石巻地区】(渡波公民館)地元の協力で炊き出しを実施しているが、水と食料が不十分、車両通行不可(流留集会所)毛布、食料、水は十分に確保、車両通行可、高齢者多数(石巻グランドホテル)食料、水は250人全員分を確保(万石浦中)避難者1000人毛布、食料、水は十分、冠水なし、近隣のスーパーからも物資の提供を受けている 【河北地区】河北給食センターはガス釜1基が使用可、配送計画と人員の確保が必要

18:10	【石巻地区】湊地区のスーパーから「屋上に600人が避難しているが、大変危険、市で他の避難所へ誘導してほしい、物資がまったく届いていない」
18:24	【石巻地区】安否不明だった万石浦中の用務員は釜小でボランティアをしていたことが分かった
19:15	【石巻地区】県危機対策課より 「1時間に1000食可能な炊飯車が今日中に運動公園に到着する」
19:26	【牡鹿地区】介護施設より「入居者は全員無事。通信手段がないためラジオに伝えてほしい。水、食料、灯油、電池が不足、(牡鹿地区の情報)行方不明者130人のうち、33遺体を牡鹿体育館へ、14遺体を他の場所へ収容。通行停止箇所はヤガワ一蛟浦と深道一荻浜
20:00	【河南地区】秋田県湯沢町より日用品(おむつ)、毛布1000枚、おにぎり、豚汁の援助(明日届く)
2011年3月15日(火)	
0:00	【石巻地区】へり調整班より、「避難所の定員オーバーにより今後は重症患者のみへり運行することとした」
5:00	【石巻地区】石巻中学校 診療所開設。日中は医師在中。自衛隊による救助者搬送多数あり、看護師が不足。20の教室に分かれて避難しているほか校庭に自家用車による避難者も多数。合計2000人弱。寝たきりの重傷者も多数で、看護師の常駐配置を至急お願いしたい
6:15	【石巻地区】県から「炊飯車が現地入りしたが、かなりの水を使用する予定」との連絡→水確保できるまで見送る
7:00	【石巻地区】荻浜小(高齢者2人早急に診療が必要な状態→へり要請)、万石浦中(9か月の妊婦がいるので搬送を→へり要請) 【河北地区】大川小児童の生存者確認 全校108人中1年2人、3年2人、4年5人、5年4人、6年5人 【北上地区】橋浦小1年男子2人、3年女子1人が逃げ遅れ、行方不明 【牡鹿地区】鮎川地区に孤立した市民のへり救助要請、網地島と田代島にへりで米と水を送ってほしい→へり要請
7:30	【石巻地区】石巻中、石巻専修大2か所を救護所とし、午前9時に診療開始 農水省炊飯車到着 おにぎり1000個作ったがその場でどこかの避難者に持っていかれた 避難人数報告(警察) 侍浜(建物不明)20人 【北上地区】職員の派遣要請→派遣済み(旧北上職員) 【牡鹿地区】避難人数報告(警察) 大原小200人
9:30	【石巻地区】市長→知事「緊急にガソリン、重油などの確保を」要請 【雄勝地区】物資がかなり不足している
10:00	【石巻地区】須須壊滅、祝田川岸壊滅(避難先は洞源院など)、サン・ファントンネル、万石橋通行可
10:30	【石巻地区】湊中、湊二小では教職員のみで悪臭、異臭、病人介護など対応
10:45	【石巻地区】ライフライン情報 電気は須江、蛇田、石巻の順で復旧予定。水道は収容人数の多い避難所に給水車を配置。ガスは復旧のめどなし、避難者数(向陽小564人、向陽コミセン330人(炊き出し中)) 【河南地区】河南地区避難者数 14か所2617人
10:50	【石巻地区】消防本部より「造船所の液化酸素ガスが漏れている」→処理済み、魚町3丁目 石油配送組合から重油タンク(900ℓ)が傾き、重油が漏れ始めている→津波被害により海上保安庁が動けず、消防本部で土のう対応
11:00	【雄勝地区】雄勝町のガレキなどを撤去したため真野林道経由で大須まで通行可
12:00	【石巻地区】石巻商業高より避難者400人。食料、簡易トイレ、生理用品、ミルク、薬不足→対応、発電機用ガソリン→対応不可、県災害対策本部より「給水車14トントラックローリーを手配し、日赤で活動中」との報告、渡波中避難者100人と教員10人、毛布、食料、水が不足気味※万石浦中から少量運搬あり(市職員を配置してほしい)、山下小 未確認児童24人、避難者800人 ※電気復旧
12:40	【石巻地区】消防本部より 住吉町2丁目でマンホールが詰まって周辺水浸し
12:45	【牡鹿地区】牡鹿病院より薬の配布依頼あり→依頼済み
14:00	【河北地区】大川中、1年女子1人死亡、男子1人不明 2年全員無事 3年女子1人死亡、男子1人不明
14:20	【石巻地区】網地島ラインより 連絡船船員2人を海上保安庁へりで救助。同船に乗客なし
14:50	【北上地区】北上総合支所から報告 死者50人、行方不明者283人、避難者1830人
15:00	【石巻地区】田道町の宿泊施設 学生50人ほど避難 【河北地区】大川小児童の生存者確認 全校108人中1年4人、2年2人、3年3人、4年5人、5年5人、6年5人 合計24人(新たな生存者6人)
15:45	【石巻地区】渡波 洞源院に約300人避難している。4日間食料なしの状態
16:00	【石巻地区】教育委員会より 小中学校はストーブ使用のため灯油が不足している→対応
16:30	【石巻地区】渡波支所より 1階水没 用品が散乱して中に入れず。職員は2階に待機
17:00	【石巻地区】渡波中(避難者110人毛布、食料、水がまったく不足)、渡波の介護施設(避難者50人、水、食料を希望)、根岸集会所(避難者50人、水、食料を希望)、湊二小(避難者60人に 水、食料、電池、仮設トイレを希望)
23:20	【石巻地区】滋賀県草津市より必要物資の照会→アルコール消毒、生理用品、オムツなど回答、法音寺 物資要請、梅深寺 物資要請、牧山社務所 物資要請、湊中 物資要請、用務員1人行方不明、JA渡波支店 物資要請、渡波保育所 物資要請、洞源院・サン・ファン館 物資要請、大街道小 物資要請、釜小 物資要請、荻浜地区 物資要請 【雄勝地区】雄勝地区 物資要請 【北上地区】橋浦小 物資要請、旅館 物資要請、北上中学校・対策本部 物資要請

※【その他】は市外の情報

(5) 本庁各災対部職員の視点

■災対建設部職員(河川港湾室所属・当時40歳代)

地震後、大津波警報発表に伴い、職務により河川の様子を観察するため日和山へ向かい、津波が襲来する様子を撮影。発災直後の避難誘導や物資運搬、ガソリン確保などに奔走した。全国の自治体から派遣された応援職員の支援に感謝している。



●日和山から見た海

日和山の公園に到着し、旧北上川の河口を見ていたが、津波が襲来する気配すら感じなかった。そうしている間に公園に避難する人数が増えてきた。津波は本当に来るのだろうか、不安とともに河口部を見つめた記憶がある。津波を確認したのは日和大橋の橋げたの見え方からだった。水かさが増えて徐々に見えなくなった。吹雪もあって橋が見えづらくなった。「こんなに真っ暗になるか」というぐらいの暗さだった。南浜町の住宅地から土煙のようなものが立ち上り、「バリバリバリバリ」という音とともに大津波が押し寄せた。電柱が倒れ火花が散りプロパンガスが爆発したのか「ボンボンボン」という音もした。その後、家屋が火事になったまま流れ、燃えている家々がぶつかり、炎が大きくなった。もの凄い状態だった。

日和山への避難者は門脇、南浜地域に住んでいた方が多かったと思う。自宅が流されている様子を見てぼう然としていたり、泣いていたりされていた。この約1年前、チリ地震津波が発生している。その時にも大津波警報が発令されたが、津波は20cmほどの観測。その中で想像を超える大津波が発生した。眼下で地区全体が流されていく中、この先、どうなるのか。皆、逃げているのか。大きな不安でいっぱいだった。そのような中、「中瀬が無くなった」という声が聞こえてきた。ずっと、河口や南浜の方角を見ていたが、上流の中瀬が見える場所に向かった。ほとんどの家が流されて、橋の方にはがれきがたまっているように見えた。押し波が終わったのか引き波になっていた。もの凄い量のがれきが流れていくのを確認した。

【振り返って思うこと】

当日の深夜、腰までの高さの冷たい水に浸かりながら高台の避難所へ向かった任務のほか、津波警報の発表が継続している中、写真撮影やパトロールとして海岸沿いや半島部へ行ったことなど、今思えば安全面などから疑問に思う気持ちはある。ただ当時は使命感で行動した。

全く経験したことのない規模の地震と津波。雄勝や北上地区などは過去の経験から地震の後の津波に意識があったかと思うが、南浜地域などに津波が来るというのは恐らく、ほとんど誰も予想をしていなかった。防災訓練も地震に対する備えはあった一方、津波への備えはほとんどなかった。普段からの備えの大切さを感じた。

また、震災があった平成22年度は北上川の整備が進み、国から「石巻の河口部に堤防を整備したい」という話があった。人口10万人以上の都市で河口部が無堤地区というのは全国でも石巻しかなかった。石巻は江戸時代から舟運が盛んで江戸へ米を運ぶ拠点となっており、その上げ下ろしのため堤防は造られなかった。昭和には魚市場が造られたため、やはり堤防がなかった。市民にとっては昔から「母なる北上川」であり、川に接するのが日常。川が見えない生活はしたくないという意識が強く、堤防を造ることが難しかったことは確かだ。それでも平成23年頃から、国と協力して堤防建設に向けた住民説明会などを実施する必要がある、担当部署として、その作業に当たろうとしていた中で被災をしてしまった。

■ 災対福祉部職員（福祉総務課所属・当時30歳代）

津波襲来後、1階が浸水し孤立した市役所内と外部をつなぐための栈橋づくりに率先して参加。当時担当した避難所運営や支援金等窓口の対応、そのほかの防災業務について、震災未経験世代の職員に伝え残す必要があると考えている。



● 水没で孤立した市役所と被災者支援業務

地震発生後、市役所内部は粉じんが舞い、避難を呼び掛ける警報が鳴っていた。地震後

20分ぐらいたっていたかと思うが、一旦、高台の図書館に行き、また20分後に戻ってきた。その時、国道が川のように水が流れていた。渡ることができなかつたため、図書館で30分ほど過ごし、再度、市役所に戻った。今度は水が引いていて、庁舎内に入ることができた。

戻ったが、非常電源でついたテレビの情報だけ。名取市閉上の空撮の津波に信じられない思いをもった。その後、庁舎は1.5mほど浸水し、孤立状態となった。なかなか水が引かない状況となったため、職員で手作りの渡り栈橋をつくることになった。2階や3階から机などを下ろし、水に浸かって外で待機した職員がロープを持ちながら机を運んで作った。私も入ったが本当に冷たかった。

その後は、避難所運営や被災者支援の業務などに当たった。り災証明書を発行した時には、午前7時ごろには1階に長蛇の列ができた。それがずっと続く。1日800人から900人ほどの方に、朝に整理券を配布し、受付を制限しなければならない。殺伐とした雰囲気の中、緊張感を持って対応した記憶がある。

【振り返って思うこと】

東日本大震災は広域的な津波の被害だったと思う。それを要因としてか支援の不公平さを訴える被災者が多かった。「隣人と同じ被害なのに支援内容が異なる。なぜだ。」ということ。それが最も大きかったのは住宅再建で、災害危険区域ということでの線引きだと思っている。やむを得ないことだが、区域の内側と外側で、住宅再建に対する支援の違いで不公平感が広がっていったことがあった。差が生じるのは当たり前のことだと思うが、今後の課題ではあると考えている。

また、他の職員にも言えることだが、家族の安否について、本震の直後、携帯電話がつながり、妻と義理の母が無事だということを確認できたが、そこからはもうつながらなかった。状況も不明だった。その後に確認できたのが2週間後ぐらいの自分の誕生日。丁度その日、「一回家帰って来ていいよ」と指示があり、自分なりに「これが誕生日プレゼントか」と思いながら状況を確認できた。

自分のメンタルケアは考えもしなかった。必死でやるしかなかった。ただ、家族を失った上司が陣頭指揮を執っていた姿を見ていたため、「まだまだ自分は救われている」と思い、頑張ることが出来たと思う。

■ 災対病院部職員(市立病院事務部所属・当時50歳代)

市役所にて保健福祉委員会に出席中に地震発生。地震の傷病者が来るのではと、海沿いの市立病院に引き返し、到着から約1時間後に病院は津波に襲われた。

● 病院から見た南浜の津波

発災当時は市役所で議会が開かれ、保健福祉委員会が開催されていた。休憩時間にあの大きな地震が来た。かなりの揺れだったため、病院も大変な状況と思い、病院長と共に南浜町へ戻った。結果的には津波が来る前に病院にたどり着けた。この段階では津波が来るという認識は持っていなかった。地震のけが人がいれば、その受入態勢を整えるためだった。その準備をしていたときに、けが人ではなく津波が来たという状況だった。病院では宮城県沖地震に備え、月1回の頻度で、日曜夜や平日朝など、さまざまな想定で訓練を行ってきた。発災時もスタッフは冷静だった。その後、女川町に10mの津波という速報が入ったことで、受け入れを止め、患者を上階に避難させ、患者以外の外出も止めた。近隣の老健施設の利用者も病院まで連れてきて、上階に避難させたという状況だった。



その後、津波が来た。「波」としてくるのかなと思っていたが、目の前の津波は、水面が全部盛り上がる状態で、黒い水がそのまま盛り上がっていた。大変なものを見てしまったと思った。プロパンガスに引火し燃えながら流れていく家屋。避難した家ごと流されていく家族と、その人たちの「助けて」というような悲鳴。ボンベの爆発する音。車の中に乗ったまま流されていく人、凄く悲惨な状況を見たが、どうすることもできなかった。燃えた家々が流されて最終的には門脇小学校の方に流されていく。山際で止まり、その周辺で火災が発生したというのは、おそらくそれに関係していると思う。

その後、津波が来た。「波」としてくるのかなと思っていたが、目の前の津波は、水面が全部盛り上がる状態で、黒い水がそのまま盛り上がっていた。大変なものを見てしまったと思った。プロパンガスに引火し燃えながら流れていく家屋。避難した家ごと流されていく家族と、その人たちの「助けて」というような悲鳴。ボンベの爆発する音。車の中に乗ったまま流されていく人、凄く悲惨な状況を見たが、どうすることもできなかった。燃えた家々が流されて最終的には門脇小学校の方に流されていく。山際で止まり、その周辺で火災が発生したというのは、おそらくそれに関係していると思う。

● 院内のチームワーク

病院は、チームワークが高い組織だった。病院長が常々言っていたのは「医療はチームワーク」。全部が集まって一つの病院が成り立つからこそ、我々はチームだと。横のつながりを意識し、病院長が考えたイベントにスタッフが参加していた。普段の仕事では顔を合わせなくても、イベントを通じてコミュニケーションをとる環境づくりをしていた。

【振り返って思うこと】

病院へ引き返したという行動は無謀な判断であり、まずは自分の命を守ることが最優先だと考えている。自分の命を守り、次の段階に移るということ。それを痛感したのは、病院長と2人、市役所から南浜町に向かったこと。津波が偶然、1時間後だったので助かったが、もしこれが少し遅かったら、どうなったかが分からない。指示を出す病院長が事故に遭うことはありえない。まずは自分の命を守る。そして安全を確認した中で行動を取る。それが一番だと思う。

(6) 発災当日の各災対支部(総合支所)の対応

災害等が発生した場合、通常、6総合支所は災対支部を設置し業務に当たります。しかし、本震災では、被災の程度が異なる状況下で、支部としての機能が果たせない総合支所もありました。ここでは、当時、災害対応に当たった総合支所職員の証言をもとに発災当日の状況を記しています。

■災対河北支部(河北総合支所)

【発災から深夜までの状況】

地震発生時は市役所本庁舎で議会開会中のため総合支所長ら幹部職員は不在だった。住民に避難を呼び掛けるため、数班に分かれて公用車で避難の広報に出動した。夕方には、幹部職員が本庁舎から戻り、災対支部を指揮した。被害調査をはじめ、避難所の開設や炊き出し、寝具と飲料水や食料の手配など職員で業務を分担した。停電等により区内での連絡手段が途絶したため、伝令による指示伝達方法をとった。各地域の避難所から防寒対策と照明設置の依頼があり、ストーブと発電機、灯光器を配達するなどの対応を行うも、避難所が点在しており、庁舎内の機器数では足りずに対応できない避難所もあった。発電機の手配を進めながら、夜間も情報収集を継続。備蓄していたアルファ米を調理し、各避難所へ配達するなどした。

また、大川地域で避難誘導に当たっていた職員と連絡が取れない状況だったことから、深夜ではあったが、職員数名で現地へ出向くも道路(堤防)も橋も寸断され、たどり着くことはできない状況であった。無線にも応答しなかった。帰路、津波被害で立ち往生する車両を救出した。窓口には市民が殺到したが、情報がないとしか伝えられない状況であった。

【振り返って思うこと】

- 中核病院から各避難所へトリアージされた避難者には、氏名や病状などを記載した情報バッグのようなものを持たせてもらえると、受け入れ側としては、スムーズな対応につながる。
- 実働職員が少なく、物資の受け入れから配達、避難所支援(宿泊)までフル回転での業務となったため、避難所担当職員を事前に振り分ける案は良い考えだと思う。

■災対雄勝支部(雄勝総合支所)

【発災から深夜までの状況】

議会対応で幹部職員は不在であった。地震発生直後、庁内の状況を確認し本庁に連絡。火災報知器の鳴動箇所を確認したが、火災は発生していなかった。防災行政無線で広報を行ったほか情報収集に努めた。庁舎内にいた住民の安全確保および庁舎屋上への避難誘導を行った。また、戸籍耐火庫等書棚と机全部に施錠したほか住基閲覧台帳を持参の上、職員も屋上へ避難した(午後3時10分ごろ)。午後3時23分ごろには総合支所に津波が押し寄せた。みるみるうちに水かさが増し、津波は屋上まで迫ってきた。津波は庁舎3階まで浸水したが、幸いにも屋上まで到達することなく難を逃れた。庁舎3階に備蓄していた毛布等の確保や簡易ベッドを組み立てるなどして、3階和室に一時避難場所を設営した。

通信手段が一切絶たれる中、夕方にかけて庁舎周辺の被害調査および備蓄食料等の確認を行い、暖をとるための木片などを確保した。庁舎屋上と3階に分かれて避難し、焚火の周りで一夜を明かした。

【振り返って思うこと】

- 職員も被災した状況で災害対応が長期化し、疲労が明らかであった。過労防止の観点から交替休養も必要。
- 通信手段(電話回線、携帯電話、県防災無線)が全て寸断された。新たに配備された衛星携帯電話等を非常時に全職員が使用できるよう、保管場所、使用方法の周知徹底を心掛けたい。
- 戸籍耐火庫の鍵の全部を持ち出せなかったため、後日開錠できなかった。

■ 災対河南支部(河南総合支所)

【発災から深夜までの状況】

地震直後、庁舎建物の安全性に不安があるため、庁舎内にいた住民の避難誘導に当たりながら職員も外に避難した。そのまま、車庫に応急の災害対策場所を設営。発災から約1時間後には、支部対策本部の作業スペースが確保できていた。消防団の幹部が庁舎に集まってきたため、幹部職員は市役所本庁舎で議会に出席しており不在であったが、集まった消防団とも話し合い、夜に備えて庁舎2階の総合支所長室に支部災対本部を開設することとした。消防団には土木建築業や電気関連業に従事する団員がおり、大型発電機やケーブルの敷設が可能だったことから、庁舎2階の一部は停電が解消されて設備が整った。河南地区では、消防団が被害調査を担うため、当時から積載車1台1台に無線が搭載されており、行政無線で総合支所とも通信が可能だった。ゆえに、地域の被害状況などの情報は相互で全て共有できた。夕方にかけて避難所を開設し、職員を配置したが、通信ができるため消防団にも常駐してもらった。

河南地区は、2003(平成15)年に北部連続地震を経験しており、当時、災害対応に従事した職員も多く、発災後に直面する課題や緊急対応がイメージできていたことは大きかった。そして、家族の安否確認や各自の災害対応への準備のため、職員を交代で一時帰宅させた。

【振り返って思うこと】

- 内陸部に位置しており津波の被害が少なかったことから、地区内の避難所には地区外から多数の避難者が身を寄せていた。津波の被害が甚大だということを知らずにいたので、バスに乗せられ全身ずぶ濡れでやってくる避難者らを前に少し戸惑ってしまった。
- 普段は、住民との距離が近く顔の見える関係性で業務を行っていたので、市外からの避難者対応は、氏名も分からず健康状態を把握するのに苦慮した。
- 発災直後から、おにぎりを握り続けていた記憶がある。米は農家が提供してくれたので、とにかく炊き出しを続けていた。

■ 災対桃生支部(桃生総合支所)

【発災から深夜までの状況】

議会対応で幹部職員は不在であった。地震直後、被害状況などを把握するための地区内巡回と状況確認調査を行った。民家が全壊し道路が通行できない状況など、地震の被害を多数確認した(※桃生地区は、家屋の倒壊や道路の陥没など地震の被害が大きかった地区で、市内で最大の震度6強を観測している)。交通安全指導隊員に連絡し、交通整理を依頼した。その時点で携帯電話はつながっていた。不通になってからは、直接民家を訪問し依頼して回った。地区は停電していたが、総合支所は自家発電で明かりなどが確保できていた。本庁との連絡は取れにくく、衛星電話もつながりにくい状態であったため、情報が入手できなかった。夕方までに指定避難所を開設し受け入れ態勢を整えたが、津波の情報は全く知らなかった。支部対策本部会議を開催し、地区内の被害状況を確認した。日没のため、翌日早朝より道路に倒壊した民家やブロック塀の撤去等、消防団の協力を得ながら仮復旧作業することとした。

夜になり本庁から連絡があり、避難者の受け入れの依頼であった。100~150人という数の避難者の受け入れとのことで、中津山第1小学校体育館で受け入れることとした。その後、議会に出席していた雄勝総合支所の職員が、雄勝への道路が通行止めとのことで桃生総合支所へ来た。津波の情報や沿岸部を中心に被害が出ていることは、その職員から聞いて初めて知った状況であった。深夜になっても避難者の受け入れの連絡があり、その対応などに追われた。

【振り返って思うこと】

- 情報が少ないため、瓦版のようなものをつくり総合支所内に貼りだしていた。

- ・石巻赤十字病院から避難所へ移される避難者の情報が少なすぎて、対応に苦慮したところがある。
- ・本支部の対策本部で協議し、防災行政無線で衣類や布団の提供を呼び掛けた。集まった物資を市バスに積み込み沿岸部に届けていた。消防団の助けも借りながら米などの支援物資の配給を行い、その行き来で情報を収集していた。
- ・婦人防火クラブや町内会などによる炊き出しのほか、地域住民が自主的に重機を出して応急的な修復をしてくれるなど地域のつながりに助けられた。

■災対北上支部(北上総合支所)

【発災から深夜までの状況】

議会对応で幹部職員は不在であった。地震の後、防災行政無線で住民への避難の呼び掛けを続けた。災対支部を設置し、訓練どおり安全確認とパトロールなどのため2人一組で計3班を相川と橋浦地域、そして小学校と保育所の避難誘導で、もう1班を出勤させた。総合支所では、避難してきた住民らの避難誘導を行い、慌てることなく訓練どおり2階へ誘導していた。「避難誘導完了しました」の報告があつてからしばらくして、総合支所の脇を流れる月浜沢を津波が遡上しはじめたのが確認できた。勢いが増す中、午後3時30分ごろ、衝撃とともに総合支所1階の腰壁が抜けるような津波が襲来し、総合支所にいた全ての人が被災し多くの命が失われた。

翌朝、高台にある北上中学校体育館に災対支部を再設置し、その後、近くのスポーツ施設の管理棟に災対支部を移設し、少ない職員で災害対応業務に当たった。

【振り返って思うこと】

- ・安否確認、薬品や飲料水の確保、道路応急復旧への対応、消防団への情報伝達など少ない職員での対応には限度があった。
- ・防災訓練をするなど備えはしていたが、津波は想定をはるかに上回り、備え以上のことはできなかった。逆に、訓練をしていれば対応できるということでもある。

■災対牡鹿支部(牡鹿総合支所)

【発災から深夜までの状況】

議会对応中で幹部職員は不在であった。地震の後、大津波警報の第一報が入り、高台への避難について防災行政無線による広報を行った。来庁者の安全を確保し、庁舎内の被害状況を確認。避難住民の受け入れ準備を進める一方で、外部との連絡が取れずに孤立した。庁舎は避難所としての指定はしていなかったが、高台にあることから多くの住民が避難し、避難所としての設備や備蓄がないまま受け入れることとなった。夕方になり、総合支所に避難した約200人の地区住民に2階研修室や休憩室を開放し、懐中電灯などを準備した。また、職員の安否確認も行いつつ、避難者の暖房や寝具等の調達のため高台にある住宅を訪問するなどしたが、高齢者や要介護の避難者が多く、暖を取る方法に苦慮した。夜は非常電源により何とか明かりを確保した。

【振り返って思うこと】

- ・男性職員で夜間受付当番を編成し、一定期間は夜間受付窓口を開設していた。
- ・通信網が途絶えていたことから、職員各自の判断に委ねられたところがある。
- ・本庁との通信手段は、発災から数日後に入手した衛星携帯電話1台のみであり、災对本部会議での決定内容もネットワークやFAXが不通状態のため、1~2日遅れて紙面により1部届けられる程度であり十分な情報共有ができなかった。本庁災対本部も混乱しており、各災対支部に委ねられるなど判断に苦慮することが多かった。
- ・総合支所の職員だけでは限度があり、地域コミュニティの促進、連携強化が必要とされる。

(7) 市民への情報発信

震災後は、市民への情報発信についても困難を極めました。総合支所や支所をはじめとする拠点の多くが津波などで使用不能となったほか、防災行政無線等の機器が損壊したことから、通信や無線などを使用した広域的な情報発信ができませんでした。ライフラインの復旧に時間を要す中、ラジオからの情報は有効でした。3月15日には、市役所本庁舎4階に「いしのまき災害エフエム」を開局し、ラジオを通じての情報提供を始めました。

明かりのない生活が続く中で、一部では「強盗」や「殺人」といったさまざまなデマが発生するなど不安が広がり、避難所ではなく、損壊した危険な状態の自宅にとどまり続ける方もいました。生きるために大変な状況下で、情報不足がさらに追い打ちをかけていたのです。また、地震による地盤沈下の影響で、高潮による浸水や冠水被害といった二次的被害も多発していました。本市では、注意喚起を促すとともに、正しい情報を市民に伝えるため、市報の災害臨時号の発行や新聞、ラジオなどを通じてさまざまな呼び掛けを行いました。そうした状況が少しずつ落ち着き始めてからは、支援制度や証明書発行、災害弔慰金など、生活再建に向けた情報の発信に努めました。

●市報の災害臨時号を発行

市報いしのまきは、災害臨時号として2011(平成23)年3月27日の第1号を皮切りに、同年9月15日発行の第13号まで、災害証明書の発行や応急仮設住宅の整備状況、災害弔慰金など被災した市民向けの情報を発信し続けました。下記は第1号に掲載した、当時の亀山石巻市長からのメッセージです。

市長から住民へのメッセージ

3月11日(金)午後2時46分、牡鹿半島の東南東130km付近を震源とする東北地方太平洋沖地震が発生し、経験したことのない極めて激しい揺れとその後に襲来した巨大津波により、石巻地方に未曾有の被害をもたらしました。

巨大地震・巨大津波の大震災から2週間がたった現在も多数の被災者が救援を求め、また電力、水道などの生活基盤への打撃により市民の生活に多大な支障をきたすなど、今なお緊急の対応が必要な状況にあります。現在、市民の生活の安定を最優先に、救援物資の確保および輸送、ライフラインの復旧、道路の確保、決壊した堤防の復旧などに関係機関の協力を得て全力で取り組んでおります。

厳しい寒さに耐えながら避難所生活を送られている多くの市民の皆様や、さらには外に出るのもままならず、被災した家で暮らし続ける皆様にご苦労をお掛けしておりますことに、衷心よりお詫び申し上げます。いま、皆様に救援物資をお届けするため懸命の努力をしておりますが、障がい者の方々や、高齢者の皆様が孤立することのないよう、地域の皆様にもご協力をよろしくお願いいたします。

石巻市長

ご注意！ デマの横行と窃盗行為が増えています!!

強盗や殺人など、メールやインターネット、口コミによるデマが広がっています。

新聞などの報道以外の情報は、信用しないでください。

また、店舗荒らしや空き巣などの窃盗行為が増えています。警察では、夜間のパトロールを強化していますが、出掛ける際の戸締りはしっかり行うようお願いいたします。

災害対策本部

市報・災害臨時号の情報

頑張りろ石巻
市報いしのまき
災害臨時号

今号の臨時号で被災された皆様は、心ばかりの慰問品をお届けします。

被災状況	注 意 事 項
死者	3,177 名
行方不明者	3,726 名
避難者	21,177 名
避難所	199 箇所

石巻市長 亀山 石巻

2. 緊急対策と並行した震災復興基本方針の策定

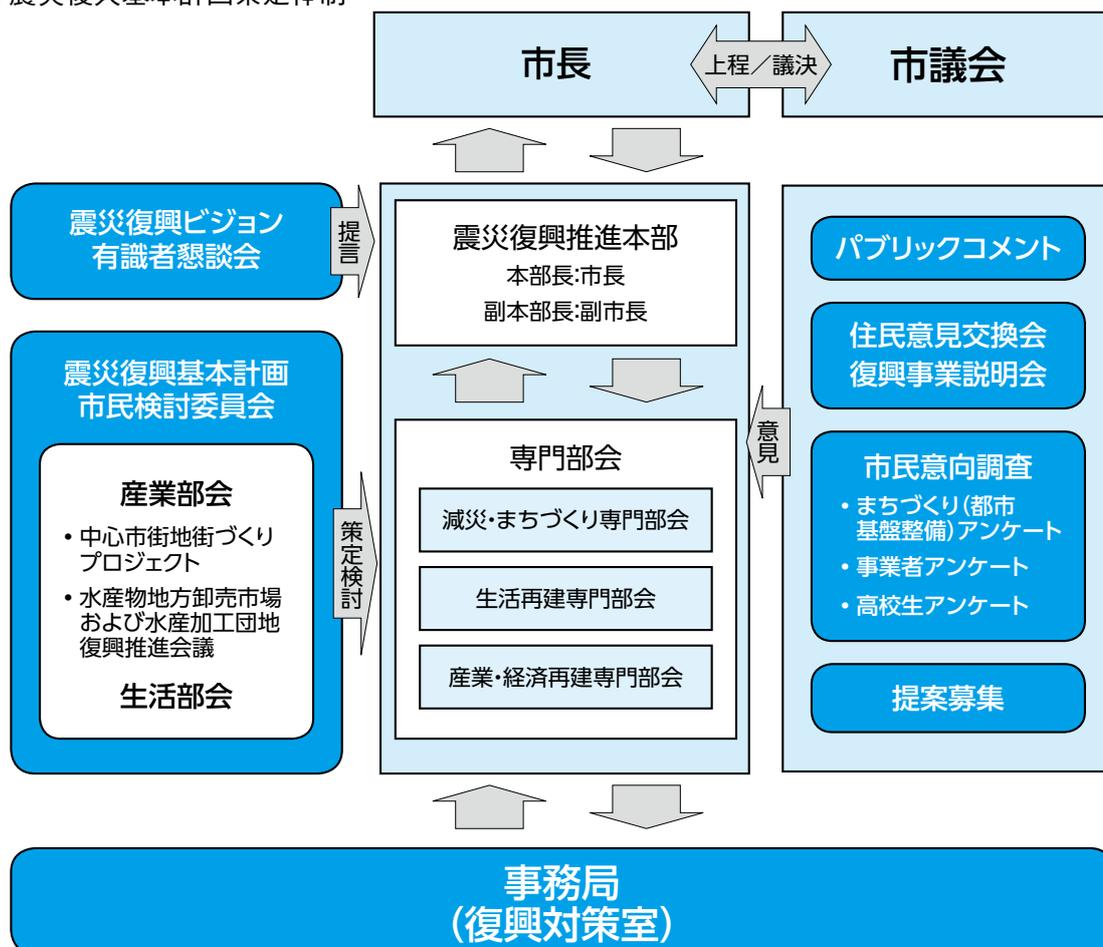
(1) 復興対策室・震災復興推進本部の設置

発災直後から避難所運営などの応急対応や暮らしの復旧作業を進める一方、将来へ向けたまちづくりを実現するため、並行して復興の方針や計画を策定し復興事業を遂行していく必要がありました。そのため、発災から1カ月となる4月11日には復興対策室、4月15日には震災復興推進本部を設置し、本格的な復興への体制を整えました。震災復興推進本部は、本部長を市長、副本部長を副市長とし各部長級職員らで組織され、専門部会として「減災・まちづくり専門部会」「生活再建専門部会」「産業・経済再建専門部会」の3組織を置きました。

同本部は震災復興基本方針を策定し、さらに、震災復興ビジョン有識者懇談会や市民検討委員会、住民との意見交換会などから得た提言や意見などを受けながら震災復興基本計画の策定を進めました。

なお、同本部については、震災復興基本計画策定後も復旧・復興事業の審議などを行ってきましたが、復興財源を活用した事業が全て完了した2022(令和4)年度でその役目を終え、2023(令和5)年5月23日の会議が復旧・復興事業についての最終報告となりました。

◆震災復興基本計画策定体制



(2) 震災復興基本方針の策定

2011(平成23)年4月27日、震災復興推進本部は本市の復旧・復興の指針となる「石巻市震災復興基本方針」を公表しました。本方針は同日、本部長を務める市長が市議会東日本大震災対策会議で示し、単に復旧・再生だけでなく、新エネルギーや環境、観光を柱とする産業創出や減災のまちづくりの展開など、新しい石巻市、の創造について決意を込めました。第3章で紹介している「石巻市震災復興基本計画」は、基本方針に基づいて緊急かつ重点的に取り組む事項をまとめ、将来的な復旧・復興への道標として策定しました。

石巻市震災復興基本方針(抜粋)

「石巻市震災復興基本方針」は、東日本大震災で甚大な被害を被った本市の復旧・復興に向け、その基本的な理念及び方向性を示すものです。今後、この基本方針に基づいて、緊急かつ重点的に取り組む事項をまとめた「(仮称)石巻市震災復興基本計画」を策定します。

●復興の基本理念

・未曾有の大地震と大津波の襲来

平成23年3月11日、この日は私たちにとって、忘れることができない、そして忘れてはならない日となりました。午後2時46分に発生した東北地方太平洋沖地震、そして、その後に襲来した巨大津波が石巻市を容赦なく襲い、私たちは平和な生活を一瞬にして失うこととなりました。襲い来る巨大津波は、本来市民を守るべき防波堤をいとも簡単に破壊し、数千人の石巻市民の命を奪い、そして、私たちの住まいや働く場、都市・産業基盤となる道路や港湾、漁港など多くの財産を呑み込みました。この悪夢ともいえる災害の跡に残ったものは、市街地や各集落を覆い尽くさんばかりのガレキの山、家族・友人を失った深い悲しみであり、日和山から石巻湾を臨む市街地や南三陸沿岸の漁港を中心とした集落は、直視しがたいものに変貌しました。

・被害への支援とコミュニティの芽生え

震災後、自衛隊や国・県をはじめ、全国の企業や自治体、ボランティアの方々など多くの支援をいただき、再建に向けた第一歩を踏み出しました。被災した人と人とが助け合い、「生きる力」となるコミュニティも芽生えはじめています。しかし、この未曾有の大災害の痛手はあまりに大きく、想像を絶するガレキや廃車の量、度重なる余震の発生、沿岸部の地盤沈下により、震災から1か月半が過ぎた現在でも復旧が思うように進まず、未だ1万人を超える市民が避難所での生活を余儀なくされています。また、企業の多くは、事業再開のめどが立たず、多くの市民が職を失っています。

・市民の不安を安心に変えることができる施策の展開

このため、まず、被災された市民の居住環境の確保をはじめ、震災後の心のケアや健康、医療、福祉サービスなど安心して暮らせるためのサービス提供体制を構築していかなければなりません。また、未来の担い手となる子供たちの育成や職を失った人に向けた雇用確保など、震災により壊滅的な被害を受けた市民の方々の不安を少しでも解消することができる施策を展開していくことが必要です。

・復旧・復興の担い手である市民が夢や希望を持てる計画の策定

今後、復旧・再生・発展の各段階にある課題を解決するためには、国・県との調整のもと、まちづくりの基本となる新たな都市デザインが不可欠となります。各事業の実施には、市単独ではなく、国、県、他の地方自治体、市民、NPO、地域などあらゆる主体が対等の立場で協力する仕組みを構築し社会全体に広げ、共鳴現象を起こすことが必要となります。

第2節 救助と復旧への支援

1. 救助と仮埋葬

(1) 人命救助

本震災は、広域的かつ複合的な大規模災害となったため、救助活動の拠点となるべき消防署や消防団の建物や車両の多くが被災し、機能不全となりました。それでも、津波から逃れ孤立した市民や津波火災が広がる中、助けを求める声に危険を顧みず救助に向かう消防隊員、消防団員らに多くの命が助けられました。一方で、住民の命を守るために、避難誘導や水門の閉門に向かい犠牲になった消防団員もいました。本庁や各総合支所の職員もまた、避難誘導や助けを求める市民の緊急的な救助活動に出動していました。

3月の発災でしたが、当時は小雪が舞う寒さで、朝までに低体温症により助からなかった命も多くありました。暗闇と寒さに耐えながら、励まし合い、家族の無事を祈る中、夜を徹して救出・救助活動が続けられました。内陸に移転していた石巻赤十字病院には、発災からしばらくして続々と患者が運ばれていました。医師や看護師らが懸命に救命処置を続けていましたが、それでも限られた車両や資機材、物資や人材(各専門員)での救助・救命活動は困難を極めました。



警察のヘリコプターなども救助に当たった



孤立した人を救助する自衛隊員



ボートで救助を試みる消防隊員



搜索活動を行う自衛隊員

❖救助出動件数

	3月11日	3月12日	3月13日	3月14日	3月15日	3月16日	3月17日	～5月末	計
緊急消防援助隊	—	1件	2件(1)	3件(1)	4件	4件(2)	1件(1)	21件(11)	36件(16)
県内広域応援消防本部	—	—	—	—	—	—	—	4件(4)	4件(4)
石巻広域消防	36件	34件	13件	6件	4件	6件	4件	17件	120件
合計	36件	35件	14件	8件	8件	8件	4件	27件	140件
救助人数	516名	564名	228名	65名	7名	5名	0名	6名	1,391名

※()内は石巻広域消防と同時出動

出典:3.11石巻広域の消防活動記録(石巻地区広域行政事務組合消防本部)

❖緊急消防援助隊の活動状況

都道府県別	受援日数	延べ隊員数	延べ部隊数
新潟県隊	60日間(3月12日～5月10日)	5,091人	20次隊 1,326隊
北海道隊	48日間(3月14日～4月30日)	4,003人	13次隊 906隊
和歌山県隊	6日間(3月14日～3月19日)	642人	2次隊 150隊
山口県隊	2日間(3月17日～3月18日)	214人	1次隊 50隊
鹿児島県隊	3日間(3月18日～3月20日)	324人	1次隊 99隊
	計	10,274人	2,531隊

❖県内広域応援隊の活動状況

消防本部別	受援日数	延べ隊員数	延べ部隊数
仙台市消防局	22日間(5月10日～5月31日)	176人	66隊
大崎地域広域行政事務組合消防本部	22日間(5月10日～5月31日)	88人	22隊
黒川地域行政事務組合消防本部	22日間(5月10日～5月31日)	88人	22隊
登米市消防本部	13日間(5月10日～5月31日)	52人	13隊
栗原市消防本部	9日間(5月23日～5月31日)	36人	9隊
	計	440人	132隊

(2) ご遺体の収容と仮埋葬

本市の震災犠牲者の数は、被災自治体の中で最多でした。石巻斎場では電源と燃料を確保し、3月15日から身元判明者の火葬を再開しましたが、3月16日に震災での死亡者を公表したところ予約が殺到し、処理能力が追い付かない状況となりました。公衆衛生上の問題も踏まえ、3月17日で一旦予約を休止し、やむなく仮埋葬(土葬)を行うことを決定しました。市内7カ所に埋葬場所を設け、仮埋葬は自衛隊に災害支援を要請しました。その



後4月11日からは、東京都の協力により、ご遺体の移送から火葬までを東京都で実施することとなり、5月31日までに519体の火葬を行うことができました。並行して、石巻斎場では4月23日から火葬を再開し、8月17日までに仮埋葬したご遺体の火葬を執り行うことができました。仮埋葬数は地区別で、石巻716、河北140、雄勝52、北上76、牡鹿9の合計993体にのびりました。

●石巻市総合運動公園での石巻市慰霊祭の開催

発災から百か日の6月18日、総合運動公園内特設テントで石巻市慰霊祭を執り行い、犠牲になられた方々に黙とうを捧げるとともに、約3千人の参列者が祭壇に花を手向けて故人をしのびました。式辞で市長は「悪夢のような大震災後に残ったのは市街地を覆うがれきの山と、家族や知人を失った深い悲しみ」と悔やみ、その上で「無念の魂に伝えるためにも単に復旧と再生だけでなく、発展する新しい石巻市を創造する」と述べました。



●停電と断水状態での避難所運営

ほとんどの避難所は、停電や断水の状況で多くの市民が身を寄せました。災対本部が置かれた市役所本庁舎は、津波の浸水で3日間1階が水没し外部と遮断されたため、直後に職員を避難所へ配置することができませんでした。したがって、施設管理者や各避難所のまとめ役となる人々を中心に、一部では自主的な避難所運営が始まり、施設の安全確認と清掃、ラジオによる状況把握、避難者名簿の作成などが進められました。

その後、職員で交代で避難所へ配置できるようになると、避難所によっては、必要な支援や現状の課題と解決などを共有するリーダー会議のような仕組みもできてきました。初期の段階では、断水と停電によるトイレの問題や要介護者への配慮、寒さ対策や温かい食事の提供など、衛生面と健康面の支援の必要性が避難所から市役所へ要望としてあげられていました。また、長期にわたる避難所生活では災害関連死が心配されましたが、本市だけでは予防や見守りなどの対応は不可能であり、全国からの医療や避難所運営、炊き出しボランティアといった支援をいただきながら日々対応に当たりました。



発災から約2カ月後の避難所(河北総合センター)



携帯電話は重要な連絡手段となった(河北総合センター)

●福祉避難所の開設

発災から6日後には、寝たきりなどの要介護者を受け入れるための福祉避難所を稲井中学校に開設しました(その後、遊楽館でも受け入れ)。ピーク時で、中学校に約60人、遊楽館に約180人が避難していました。ほとんどが高齢者であったため、市立病院の医師や看護師、市社会福祉協議会の介護士らが常駐し、急を要する際には、すぐに病院に搬送できるよう避難者の健康管理を行っていました。その後、3月29日には中学校の福祉避難所を閉鎖し、遊楽館に集約しました。



福祉避難所には看護師らが常駐し避難者をケアした

●避難所の閉所

市内の全避難所が閉鎖されたのは、発災から7カ月を迎えた10月11日でした。その時点で自宅修繕などの理由で生活拠点が定まらない約70人は4カ所の待機所に移りました。発災直後の3月は、ピーク時で市内約250カ所(避難者約5万人)の避難所がありましたが、応急仮設住宅への入居に伴って少しずつ閉鎖が進み、避難所閉鎖の前日である10月10日の時点では21カ所(269人)まで減っており、翌日の閉鎖日までには、全ての避難者の退所が完了しました。

3. 各自治体からの人的支援

巨大地震と津波による甚大な被害から本市が立ち上がる大きな力となったのは、国内外からの多くの人的支援でした。民間のボランティア、本市への応援職員など、官民それぞれでニーズに沿った作業や業務などを支援していただきました。民間ボランティアは第5章(P221)の「災害ボランティアセンター運営支援事業」で触れ、本節では自治体応援職員の活動について紹介します。

(1) 応援職員の受け入れ

大規模災害のため、当初は、被害状況や支援のニーズを把握した上で、何が必要とされているのか業務の見通しを立てること自体が困難であり、混乱した状況でした。そんな中、発災直後から多くの自治体が本市への支援に注力してくれました。本市の受け入れ体制がままならない中でしたが、兵庫県を中心とした関西広域連合や新潟県緊急消防援助隊をはじめ法務省、北海道、東京都、神奈川県、石川県、長野県、鳥取県、長崎県、山形県河北町、横浜市、大阪市などから保健師や技術職、各専門職や事務職、災害対応業務の経験者といった多様な職員の方々の派遣いただき、避難所や在宅訪問による健康調査や心のケア、支援物資管理業務や避難所運営、災害廃棄物運搬収集業務や被災管路調査、被災家屋調査や被災証明書発行業務、住宅応急修理業務や仮設住宅入居業務、ドロ出しや炊き出しなどに至るまで、さまざまな支援活動を展開していただきました。

本市担当課のニーズに合わせた支援はもとより、同じ自治体からの継続した派遣では、本市職員の負担を考え事前に引継ぎを済ませた形で支援に当たるなど、細やかな気配りもいただきました。こうした派遣は、避難所運営が落ち着くまで継続し、大きな戦力であり支えとなりました。

また、避難所から応急仮設住宅等への入居など生活の変化に伴い、災害業務と並行して通常業務および復旧・復興業務へとシフトしていく中、地方自治法に基づく長期派遣として応援職員の受け入れも始まりました。区画整理事業では、1地区の事業を1自治体からチーム派遣された職員らで担うなどの特定業務への支援も復興への大きな力となりました。

なお、地方自治法第252条の17の規定に基づく中長期職員派遣の一覧は資料編(P391)にご紹介していただきましたが、発災直後における短期的な災害等業務派遣をいただきました各自治体ならびに尽力いただきました全ての自治体職員の方々に心より感謝いたします。



被災証明書の整理券を配布する佐世保市からの応援職員



健康の調査を行う島根県職員

4. 応急仮設住宅の整備

(1) プレハブ仮設住宅

住家の流失や全壊など、住まいを失くし避難所等で生活をする市民は、劣悪な環境による健康面へのリスクが懸念され、早急な住まいの確保が求められました。そこで宮城県が主導し、災害救助法に基づく応急仮設住宅の整備を急ぎました。



総合運動公園隣接地に建設された仮設開成団地

●建設用地の確保

応急仮設住宅用地については公有地を基本としていましたが、公有地だけでは建設用地を確保できない状況にあったことから、民有地を借り上げ、建設を進めました。また、半島沿岸部の仮設住宅建設用地は、各総合支所において仮設住宅への入居希望を住民に確認調査した上で、津波被災の恐れが少ない土地に、必要戸数を整備しました。

●仮設住宅の建設

2011(平成23)年3月28日、蛇田地域の向陽町に市内で最初の建設が始まり、同年4月27日に137戸の整備が完了しました。その後、各地区において建設が進められ、同年9月28日には最後の団地が完成。計134団地、7,153戸を建設しました。

なお、石巻地区の大橋地域には、1団地当たり市内最大となる540戸の仮設大橋団地を建設。そのほか全区画合計1,000戸を超える仮設開成団地(第1～第14:合計1,142戸)など、他に類をみない大規模な仮設住宅団地を市有地に建設していきました。



急ピッチで進んだ応急仮設住宅の建設(向陽町五丁目)

◆間取り図

1K

6坪/約20㎡/単身用



3K

12坪/約40㎡/大家族用(4人以上)



2DK

9坪/約30㎡/小家族用(2~3人)



寒さ対策のため風除室が設けられた仮設住宅



単身用1Kタイプの住宅内部の様子



2~3人用2DKタイプの住宅内部の様子

●入居者の募集

入居の申込みは、2011(平成23)年3月27日から始まりまし。第1回の締切りは同年4月8日、抽選は4月26日に行われ、入居は4月29日より始まりまし。入居に当たっては、①妊産婦のいる世帯、②乳幼児(3歳未満)のいる世帯、③高齢者(65歳以上)のいる世帯、④障害者のいる世帯を優先入居とし、それ以外は公平を期すため、入居者選考協議会を開催して抽選を行いました。

当時、最大で7,102戸、16,788人(2012年(平成24)年6月時点)が入居していましたが、災害公営住宅の整備・入居などが進み、2020(令和2)年1月に全ての入居者が退去しました。

●入居後の生活

応急仮設住宅での生活は、住宅の壁の薄さから入居者間による騒音トラブルが発生したほか、車の止め方やごみの出し方、結露によるカビの発生などが問題となりました。

そのほか、入居者同士や地域のコミュニティの構築を図るため、見守りや生活支援として地域福祉コーディネーター(CSC)を地区民生委員児童委員協議会単位に配置し、入居者と周辺住民による茶話会などをとおして、地域コミュニティの拠点づくりや居場所づくり、心のケアなどを支援しました。

また、応急仮設住宅に入居できる期間は通常2年間であり、その後1年ごとに延長を申請し、7年目(2018(平成30)年度中)までは全ての仮設住宅を一律に延長していましたが、復興公営住宅整備の進捗や地域の復興状況を踏まえ、8年目からは入居世帯が個別に認められる特定延長を導入しました。

(2) みなし仮設住宅

応急仮設住宅には、被災後に建設するプレハブ仮設住宅以外にも既存のアパートなどの民間賃貸住宅(借家)を応急仮設住宅として扱う、いわゆる「みなし仮設住宅」があります。

みなし仮設住宅は、宮城県が民間賃貸住宅を借り上げ被災者に供与するもので、県が毎月の賃料などを負担します。本市では、最大で5,899戸、15,482人(2012(平成24)年3月時点)が入居していました。

❖地区別応急仮設住宅整備状況

地区名		団地数	着工戸数
石巻地区	蛇田拠点	16	624
	大橋拠点	12	871
	開成拠点	27	2,046
	万石拠点	18	633
		73	4,174
河北地区		9	847
雄勝地区		8	161
河南地区		19	961
桃生地区		4	331
北上地区		3	234
牡鹿地区		18	445
合計		134	7,153

5. 各種生活支援

(1) 窓口業務の再開

発災後、市内全域が停電し、市役所本庁舎は非常用電源装置により、サーバー室や照明など一部のみの給電状況が続いていましたが、電力が復旧後、3月28日から住民票の写しの交付を再開しました。4月11日には基幹系システムの稼働再開に併せて、本庁舎(市民課・税務課)、河北総合支所、河南総合支所、桃生総合支所、蛇田支所での窓口業務(住民票・戸籍に関する諸証明、住民票の異動、戸籍届出、印鑑証明・登録、税諸証明など)を再開しました。その後4月14日からは、被災証明書、り災証明書、被災者生活再建支援制度、災害弔慰金などの申請受付を開始しました。なお、津波により被災した総合支所などは、公民館や中学校、仮庁舎などへの移転により徐々に業務の一部を再開していきました。



申請日初日(4月14日)の本庁舎内。訪れた大勢の人に職員が拡声器で説明している状況

(2) 初期段階での主な支援

●被災証明書・り災証明書の発行

- ・被災証明書 被災した事実を証明する。住家以外が対象。
- ・り災証明書 住家の被災程度を証明する。市が被災家屋調査を行いその確認した事実に基づき発行。

❖り災証明書発行数

被害程度	全壊	大規模半壊	半壊	一部損壊	床下浸水	被害なし	合計
住家(世帯)	20,044	10,706	2,344	15,336	—	21	48,451
非住家(件)	4,512	2,946	601	1,438	—	—	9,497

●被災者生活再建支援制度の周知

住宅が全壊した世帯、住宅が半壊または住宅の敷地に被害が生じて住宅をやむを得ず解体した世帯、住宅が半壊し大規模な補修を行わなければ居住することが困難な世帯(大規模半壊世帯)を対象に生活再建を支援する制度です。支給額は、住宅の被害程度に応じて支給される基礎支援金と住宅の再建方法に応じて支給される加算支援金の合計額になります。こうした制度の周知を市報・災害臨時号(配付および郵送)などを通じて行いながら、申請につなげていきました。

❖基礎支援金

被害程度	複数世帯支給額	単数世帯支給額
全壊	100万円	75万円
解体	100万円	75万円
大規模半壊	50万円	37.5万円

❖加算支援金

住宅の再建方法	複数世帯支給額	単数世帯支給額
建設・購入	200万円	100万円
補修	150万円	75万円
賃借(公営住宅以外)	50万円	37.5万円

❖支給決定件数および支給済金額

	基礎支援金	加算支援金	合計
件数	31,475	23,392	54,867
支給済金額(万円)	2,327,112.5	2,905,212.5	5,232,325.0

序
章

第1章

第2章

第3章

第4章

第5章

第6章

第7章

資料編